

令和7年度補正予算

「産学連携リ・スキリング・
エコシステム構築事業」
補助金事業

大学リ・スキリングプログラム事例集

メニュー②「産業成長」

領域：蓄電池

早稲田大学: リ・バッテリー・アカデミー～産官学連携による蓄電池高度人材育成プログラム～



プログラム概要

① 名称

- リ・バッテリー・アカデミー
～産官学連携による蓄電池高度人材育成プログラム～

② 目的

- カーボンニュートラル社会、デジタル社会実現におけるキーデバイスである蓄電池に関して、産官学の連携を軸に、蓄電池の材料・製造からリサイクルまで「サプライチェーン全体」を俯瞰できる高度専門人材の育成

③ 対象者層

- 文系理系問わず、蓄電池関連企業社員、国・自治体関係者など、蓄電池のリスキリングに関心のある方

④ 育成対象の課題・目指す姿

- 蓄電池市場の拡大に伴う深刻な人材不足への懸念があり、2030年には3万人の需要が見込まれ、新たな高度専門人材の育成が必要
- そこで、産学官が連携した本プログラムの受講を通じて、「サプライチェーン全体」を俯瞰できる高度専門人材を育成

⑤ 学修成果

- 蓄電池の高度な専門知識に加え、経済安全保障や環境影響評価など、産業全体を俯瞰する視座を持ち、自ら戦略を立案・実行する人材へと成長

カリキュラム内容

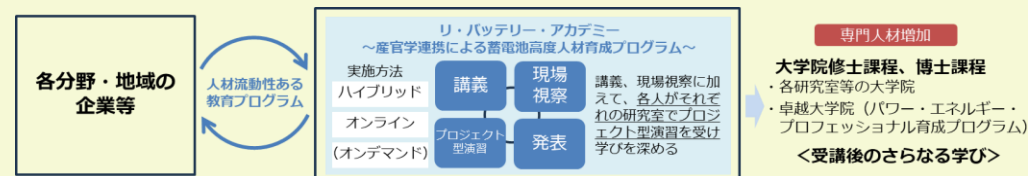
① カリキュラム特徴

・産官学の連携の教育プログラム

- 企業と大学が連携した実践と学びが循環する人材の流動性がある教育プログラム。企業等の現場視察も含めて、最新の技術動向や運用実態を体系的に学ぶ。
- 講義に加えて研究室でのプロジェクト型演習を並行して実施し、大学院進学や共同研究事業化の可能性を高める。

・ハイブリッド型の学習

- 全国からの受講者に対応するため、講義・プロジェクト型演習は対面（オンライン配信あり）とオンラインのみを組合せて効果的に実施、現場視察等は早稲田大学内外にて対面で実施する。



② アピールポイント

- 早稲田大学の先端研究を担う研究室でのプロジェクト型演習
 - 蓄電池の最先端の技術や研究に触れ、学ぶことができる
- 学修目標の達成者にはデジタルバッジを発行予定
 - 保有スキルの可視化と目標達成状況の確認が可能

早稲田大学: リ・バッテリー・アカデミー～産官学連携による蓄電池高度人材育成プログラム～



プログラム詳細

⑥ 受講料

- ・ 0円

⑦ 受講人数

- ・ 20人

⑧ 受講時間数

- ・ 30時間

⑨ 開講時期・所要期間

- ・ 2026年9月～2027年3月

⑩ 社会人の学びやすさへの配慮

- ・ 研究室ごとに日程を柔軟に調整・オンライン併用

⑪ 実施形式

- ・ 講義等（ハイブリッド・オンライン）、現場視察等（対面）

申込方法・サイトURL

- ・ 参加申込方法（今後更新予定）
- ・ URL（今後更新予定）

担当連絡先

- ・ 問合せ先：早稲田大学理工センター教学支援課
sci-edu-pj@list.waseda.jp / 03-5286-2836

⑫ シラバス

【確定次第の提出とさせていただくことをご了承ください】
電池工学概論・演習・見学・成果発表会 等を予定

早稲田大学: リ・バッテリー・アカデミー～産官学連携による蓄電池高度人材育成プログラム～



プログラム詳細

リ・バッテリー・アカデミー ～産官学連携による蓄電池高度人材育成プログラム～

「リ・バッテリー・アカデミー」は、「リ（Re）」から始まる教育と資源の循環を、産官学の連携によってひとつに繋ぎ、蓄電池を核として社会の仕組みを再設計し、持続可能な未来への変革を牽引する「知の共創プラットフォーム」です。

産官学の連携を軸に、蓄電池の材料・製造からリサイクルまで
「サプライチェーン全体」を俯瞰できる高度専門人材を育成

1. 人の成長と学び直し

- ・ 変化の激しい蓄電池技術に対応するため、「リスキリング」を推進する。スキルアップと次世代教育を両立し、常に最新の知識で業界を活性化させる。

3. 信頼と責任のネットワーク

- ・ 産官学の強固な「リレーション（関係性）」を築き、社会に対する「レスポンスビリティ」を果たす体制を整える。組織の枠を越えた連携が、高度人材育成の基盤となる。



2. 資源の循環と持続可能性

- ・ 蓄電池のライフサイクル全体を見据え、「リサイクル」や「リユース」を徹底する。限られた「リソース」を有効活用し、循環型社会に貢献する。

4. 社会変革と強靱化

- ・ 蓄電池により社会システムを「リデザイン」し、エネルギーの「レボリューション」を起こし、災害に強く柔軟な「レジリエンス（回復力）」を備えた社会を構築する。